

三
二二三
二四
受信二一三六
譯始〇四一九
了〇五五〇
電一〇八二四
作
概〇

昭和廿年參月廿四日

至急

東通・横通
共符



聯合艦隊口・三航空艦隊口

機密第二三二八四二番電

526

發 父島根據地隊司令官

宛 横領參謀長 大海參第一部長

現地陸軍ニ於テハ聲島守備隊部(一ヶ大隊)ヲ一ヶ小隊程度トシソノ主力

ハ父島ニ集結スベク計畫中ナル處戰局ノ現況ト同島ニ封スル補給ノ困難

性トニ鑑ミ此ノ際海軍ニ於テモ所任特設見張所(電波深信儀未整備)及

運送基地隊ハ之ヲ父島ニ收容スルヲ可トシムルニ付然ルベク發令方取計

相成度。

通一二二二一三

呂一Bヶ五(B) 横通 野村(陸) 日

昭和廿年參月廿四日

三 二三 受信二二二八 譯了二二五五 電一〇〇七二〇九 作概

緊一急

發一發

符



先遣部隊

機密第二三一八四七番電二分ノ二三

527

先遣部隊綜合情報第三八號

一、敵機動部隊ノ一部本日〇七〇〇ヨリ一三三〇頃迄約一〇〇機沖
 繩島ヲ空襲セリ友軍航空機ハハト〇〇及ヘネ夕〇〇テ中心ト
 スルハ〇裡圈内那覇ノ一四〇度乃至一八〇度間二五〇裡ニシテ
 一二五一ハハワ四九 一一三一ヘロケ四五 一〇一五ヘラア四
 三各空母ヲ含ム一群一〇二五ヘラケ一戰艦三ヲ發見セリ
 三、來襲狀況ニ鑑ミ敵機動部隊兵力ハ優勢ヲラズ且十八日十九日ノ
 本土空襲ニ參加セザリシ部隊ナル算アリ。

通一二二二一一七
 口一Bケ元(ハ)英 信永、明長(鈴 三)

0632

東海
①
②

海一三一一九

船D

發信局、佐伯

大石(吉井)

發 佐伯海軍航空隊
 二三日
 頃當隊東海一機索敵潛爆中海面垂直墜落機体沉沒搭乘
 員目下搜索中 搭乗員松尾大尉(四二八一) 聲高少尉(六七六九)
 九五一空森田大尉(三六二八七) 一六三八

作

海上要務總隊副官

機密第二三一八九〇番電

三
二六
急

開始〇〇一五

諱了〇三一五 電一七九四

航作概本〇

528

昭和廿年三月廿六日

昭和廿年三月廿四日

三二三 受信二〇三七 譯始二〇四七 譯了二二二〇 電一〇六七 航作 本概

緊急

佐

鎮



佐鎮部隊

◎ 大海參一部・海上護衛總口・聯合艦隊口・支那方面艦隊口・五航空艦隊口

機密第二三一九〇一番電

529

佐鎮信電令作第六五號

一 敵機動部隊東海侵入ノ算ナシトセス

二 佐鎮部隊（沖繩方面部隊ヲ除ク）ハ二十四日〇五三〇ヨリ第二警戒

配備トナセ

三 第九五一航空隊司令官ハ二十四日早朝東海方面ニ索敵ヲ實施スベシ

四 一三一八八 天三日夕六（日）佐世保 廣田（森） 田

昭和十年五月十四日

三 二二三 受信二三四〇
 二四 開始〇〇〇〇
 了〇一〇〇 電一〇七八三
 航作 概本〇

作戰緊急

共

符



九五一空 (總航空基地)

海上護衛總口。聯合艦隊司令部。第五航空隊司令部。佐領

530

機密第二三一九三五番

九五一空司令作第九〇號

一、本朝東南西諸島ヲ空襲セル敵機動部隊東海侵入ノ虞アリ

二、九五一空指宿派遣隊零水三機ハ二十四日〇四三〇發進差點指宿二〇

〇度二二〇度二三〇度進出距離三〇〇浬右折三〇浬ノ索敵ヲナセ

佐世保零水三機ハ二十四日〇五〇〇發進佐世保差點二〇〇度二一〇

度進出距離三〇〇浬右折三〇浬ノ索敵ヲナセ

五二二九六 呂一B () 日 () 佐世保
 高橋 (吉) 田 ()

人

三 二四 受信〇一〇〇 譯了〇二〇〇 電一〇七七七 概〇
 開始〇一〇〇 抗 本

昭和廿年參月廿四日

作戰緊急

第五若地航空部隊作命着信所

小 崗 山 司 令 部

531

機密第二三五二〇〇一

五 F G B 指令作第二五號

明二十四日各隊左ニ依リ索敵スベシ

六夜戰隊月光四機〇二〇〇發進 F T (以下 F T 省略) 一五・一七・一

九・二一進出距離二〇〇測程右二〇測

二偵察隊陸爆隊彩雲二・一五・一六・銀河二・一八・二〇進出距離夫

々三四〇測五六〇測五〇〇測測程右六〇測。

河一二三四八 於一三(三七八二、五KG) 五 F G B 日 高(吉 田)

三 二五 受信〇八四五 譯了二一〇〇 電一一七七七 作 機

至 急

作

東通・聯合艦隊口・海上護衛總部隊口九〇一空・豊橋航空基地・高警・支那方面艦隊口・二遣支艦隊口

廈門方面根

機密第二三二〇一二番電 二分ノ一

宛 大海參一部長・大海參三部長・軍務局長

PBY四保管廈門警備隊押收書類調査速報第二

一 搭乗員指揮官海軍大尉 MATHESON・I.・O. 外五名
二 出程経路

二月七日ハワイ發以後マニラに到着スル
高ビアク島ロスネグロス發以後W・ケソガヤ三月二日クラーク
ファイルド着八日クラークファイルドWOGH-R-2編入

電信註 本電二分ノ一既配布 (東通註 本電誤字多シ)

通一三〇〇三 呂一Bヶ五八一四九三〇KC)上海

昭和廿年參月廿六日

三二四 受信〇二一〇 譯丁〇六三〇 電一三三四九 作 稿
譯始〇一六

至 急



東通・聯合艦隊口・海上護衛總部口・九〇二空（豊橋航空基地）
二遣支隊口・高警

厦 門 方 面 根 據

機密第二三二〇一二番電

二分ノ二

三月二十二日厦門B-I間〇B撃墜サル内人命救助用ゴム浮舟中
ニBOI七七八LDナル小型ノ無電機アリ敵遭難通信防衛用ナリ
阿千ボンド夜間爆撃表（燈光）全巻押收セリ。

電信課註 本電二分ノ一未送

通一二三四七 呂一Bケ五（七四六五K）上陸

533

中村（高）

三月廿五日



至急

三
二四
二二
受信二二五〇
譯譯〇四三五〇

譯丁〇九〇〇
電一〇九九七

航作概本〇

● 横濱航空基地

● 鹿屋航空基地

● 一機動基地航空部隊

● (南西諸島航空隊)

機密第二三二〇二九番電

發 五 A F 參謀長

宛 一〇一航空戰隊司令官

通報 航本總務部長

一 F B 電令作第三〇號ニ依ル宮崎空空輸先ヲ左ノ通取計ハレ度

戰四〇機等ノ原四〇機等ノ原瑞鷺全部暨分天山全部等ノ原航空隊中
陸攻本部鹿屋(八〇一二)紫電鹿屋(八〇一三)

通一二三五六 呂一 B 夕五 (三九三七) 五 KC (一 K F G B 放) 千葉 (松井)

昭和廿年三月廿五日

172

三 二二三 受信二一五五
譯始二二三六
譯了二三〇三 電一〇七五一作概〇

緊 急 共 符

第一機動基地航空部隊作戦命令着信艦所

535

機密 第二三二〇四七番電

一 K F G 信電令作第一五三號

一 南西諸島ニ來襲セル敵機動部隊ハ二群ナルモノノ如シ

一 一三〇頃ノ位置「コム四テ」及「スレ四テ」ニシテ進行方向

東南東 速力一六節

三 明二十四日〇四三〇以後第一警戒配備トシ飛行機ハ極力分散第二

準備姿勢トナセ。

通一二三〇九 才十四 (三九三七、五〇) 一 K F G 上放

松井 (鈴 三)

昭和廿年癸月廿四日

三二二
二四 受信開始 〇九〇〇〇
丁一〇二〇 電一〇九〇二

作戦概略
艦政・航本

傷

至急

局長	一機動基地航空隊	〇	〇	〇	〇
一課長	〇	〇	〇	〇	〇
A	〇	〇	〇	〇	〇
B	〇	〇	〇	〇	〇
E	〇	〇	〇	〇	〇
J	〇	〇	〇	〇	〇
F	〇	〇	〇	〇	〇

鹿屋航空基地

機密 第二三二〇五二番電

一 K F G B 電令 第五號

各基地指揮官へ今次戦闘に依り消費セル消耗兵器中緊急補充に要スル品名數量ヲ報告スベシ。

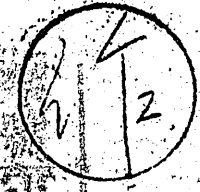
一 K F G B 放
日高 (三石)



三二四 受信〇三二〇
開始〇四〇二〇
譯了〇四四五 電一〇八五七 作 稿

緊急 二十六根

二十六根戦術機着信機所・三南遣艦隊各下



機密第二三二〇五七番電

SNK B 戦術機報二十三日

一〇七四〇一一〇〇 單發 延一四・一六三五 單發四ワシレ地區一

一〇〇單發四水バネリ地區單發二カウ地區各機一〇八四五單發二カウ

地區制壓一四三〇B1二四 一カウ機上空北行戦果被害ナシ

ワシレバ縦泊一四〇〇 大型三中型二 計六

三カウ機被弾針路北一西大型一 中型三 小型一 計一九

通一二三六六 呂二Bヲ十八(六一二二、五七)二十一通

筒井(海田)

537

昭和廿年參月廿四日

昭和廿年參月廿四日

三 二二三 受信二二三二二 譯了〇一二二二 電一〇八二七 課 通
譯始二三三五〇

緊 急

● 情報着信艦所・横領・佐領・父根

機密第二三二一三五番電 二分ノ二

〔月二十二日〇五四〇〕北緯一八度三〇分東經一三八度附近ニ測定

セル艦所ハ艦船局「ウルシ」方面修理 關係指揮官等宛長文ノ

至急電報二通ヲ送信シアリテ一部損傷艦ノ基地歸投ニ關聯アル

モノト認ム

ハ敵機動部隊關係通信情況ハ一般ニ平靜ニシテ積極的ナラズ

ニ既報 中部太平洋方面敵動靜ハ依然平靜狀況ヲ持續シアリ

538

電信課註 本電二分ノ一未起

月二二二八一

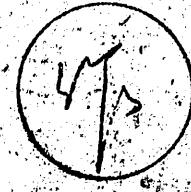
出「ウラ一八」(B) 大和田

半澤(金) 森

0642

三二四 受信 一七〇〇二 譯了 一九二五 電電 一一一九三 作 概

至 急 海 南 警



支那方面艦隊口
東通・高通・第一輸送隊口・揚子江根口
第一〇方面艦隊口・第二遣支艦隊口

機密第二三二二五七番電 三分ノ一三三

海軍部機密概報第九號

一月二十二日 一三二五B I 二四 機南西方面ヨリ本島東部清蘭方面ニ
來ル低空ニテ陣地施設ヲ偵察銃撃後 一一二八東方ニ遁走セリ
同日 一一五八ヨリ約二時間B I 二四 二機高度七〇〇〇東方ヨリ三區
地面ニ來襲偵察 投彈スルコトナク南東方ニ遁走セリ

通一二六三三、一二六四七、一二六七四 呂一Bケ五(一三五二〇K) 高通

原、イ川、田中(小野、田)

0643

539

戰果被害左ノ如シ

三 同日二二一三ヨリ約一時間半B一四 二機高度二〇〇一五〇〇米

ヲ南方海上ヨリ三亞灣榆林港地區ノ跳梁ヲ企圖セルモノノ如シ我方

地上砲火ニヨリ一機墜他ノ一機ハ南方海上ニ撃退セリ 投下彈數中

型十八 同戰果一機墜 被害ナシ

四 二十三日一一二五ヨリ約二時間ニ亘リ左ノ地區ニ來襲投彈セズ南方海

上ニ遁走 戰果被害ナシ

(イ) 陵水水口港地區B一四五計一二機同方面沿岸陣地及陵水兵舎ヲ銃撃

他ハ東口英州坡附近ヲ(以下脱作ト認ム)

(ロ) 三亞 榆林地區B一三四 三機偵察。

1879

三
二四
開始一二三四八
開丁一三四一
一〇九八九
作
概〇

緊急
一八警備隊



● 二八根取野嶺部着信接所

機密第二四〇七〇二番

540

マノクワリ敵通過情況 二十三日

一 東(西)行敵飛行機〇六五三一〇五〇双發三(八)一二〇八一

三四〇双發一(四)

二〇六二五上陸用舟艇六隻東行

通一二五二二
天一〇七五(一八三六七、五〇)一一編

機密(川口)

昭和七年...

人

一昭和廿年參月廿四日

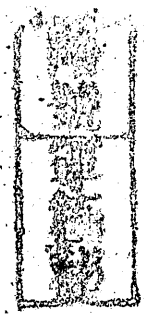
三二四
受信
〇九二六
〇九四〇
譯了
一〇〇五
電一〇八九九
航作
機本〇

緊急

● 木更津航空基地

● 第七基地航空部隊作戰命令着信艦所

機密 第二四〇七三一 番電



第七基地航空部隊電令作第一〇四號

七〇六空司令ハ明二十五日陸攻八機ヲ以テ硫費島攻撃ヲ實施スベシ。

通一二四一四 呂一〇分五 (B) 木更 吉村 (小野 田)

0646

541

三 二四 受信一〇九五二
開始一〇三三二 譯了二〇二六 電一〇九二三 作 概〇
作戰特別緊急



沖繩根・佐領

第五航空艦隊司令部、高 警



沖繩根 P

機密第二四〇九〇一 番電

542

更ニ戦艦六驅逐艦一二見ユ
ヨザタケノ一二〇度 三〇斤。

選一二四三四 於一四一九八三〇KG 佐二枚 官輪一福 田

昭和廿年 參月廿四日

人

三二四 受信開始一〇九四二 譯了二〇〇六 電一〇九二四 作 櫛〇

作戰特別緊急

● 沖繩方面根

● 東通・佐領・沖繩方面根

● 高警。第五航空隊隊口



機密第二四〇九〇六番電

543

沖繩島南端地區ニ對シテ陸砲射撃セリ。

通六二四二八 於十月() () 佐世保 山本(主) ()

昭和廿年參月廿四日

作

暗號

至 急

受信一六四五六

了二七五〇

電一一一四〇

作機〇

第一〇二戰隊

第二哨戒部隊 (AS作戦)

海上護衛隊總隊・第一護衛隊隊員・佐倉
支那方面護衛隊員・上海根拠隊員

機密第二四一〇一〇番電

544

AS三第三哨戒部隊命令第五號

一、第九哨戒隊二羽節ヲ加シ 羽節ハ準備出來次第出陣ニ就ケ

ニ三月二十五日〇八〇〇以後哨區ヲ左ノ趣トス

屋代C・D羽節E。F海五五G海三H (第二又ハ第三泊地ニテ待機)

海三四A・B (第一泊地ニテ待機) 但シ海二海三四ハ二十五日〇八〇

〇以後現哨區ヲ交代スルモノトス。

通一二七七一 於一五(九八三〇) 佐藤 日高 (福田)

三二四 受信一一二六 譯了一二〇五 電一〇九六一
譯始一一二七 航作 本概〇

作戰緊急



● 臺北在勤武官・喜界、小祿、石垣、宮古各航空基地

● 鹿屋航空基地

機密第二四一〇一八番電

545

發 一 K E G B 參謀長

通報 陸軍夕マ部隊 飛行第八師團

本日沖繩來襲ノ K D B ニ對シ當隊天山隊薄暮攻撃ヲ決行貴基地ニ機動
スルコトアルベキヲ以テ夜設補給ニ關シ手配ヲ得度。

通二二四九七 於十四(七八七五 KC) 一 K E G B 放 櫻井(森)田

昭和廿年四月廿四日

至急

三二四 受信一三〇五 譯了二三四五 電一〇九九六

航作稿 本〇

停

● 松山航空基地
● 聯合艦隊

機密第二四一一一三番電

邊 第三航空艦隊參謀長

實機密第二三一四〇番電返

日四〇一德島基地使用ニ關シテハ機密第七基地航空部隊命令作第二五
號ニヨリ發令セラレタリ尙第十航空艦隊ト打合セ濟。

通一二五五七

呂一〇ケ五

(日)

木更津空基地山内(三石)

昭和廿年參月廿三日

三 二四

受信一六四〇四

譯了一六四五 電一一〇九七

共符

潜戦作 艦力機 ○



横銀・父根卜。四、六各艦隊尸、二六潜水隊卜
大本營海軍部

機密第二四一二〇九番電

G F 電令作第五七五號

一 G F 電令作第五四八號ニ依ル父島作戰輸送ヲ取止ム

二先遣部隊指揮官ハ第七潜水部隊(伊三六〇型潜二隻波一〇〇型潜一

隻)ヲシテ左ニ依リ作戰輸送ヲ實施セシムベシ

(イ)輸送先大島島「メレヨシ」南島島

(ロ)緩急順序大島島「メレヨシ」南島島ノ順

(ハ)「メレヨシ」ヨリ同地所在ノ第二次丹作戰航空機搭乗員ヲ收容ス。

通一二六二三

呂一Bケ五(

B

(G F 尸

(渡邊)

547

昭和廿年...

人

三二五

受信一八二〇

二六

丁〇六〇〇 電一八一七

航作概本

緊急

● 徳島航空隊

● 豊後浦航空隊



機密第二四一二一五番電

548

第十航空艦隊一五FGB作戦計畫(命令作第二號)

奉二十四日定期便ニテ發送セル兵力部署中第十一・十二・十三航空

部隊ハ夫々第十一・十二・十三航空部隊(各航空部隊所在隊從通)

ト改メラル。

(東通註 本電再送ノ爲遲延)

通一三二七一

呂一Bケ五

B (横通)

齊藤(上野)

昭和七年三月廿六日

人

三二四 受信一五三二 譯始一五四〇 譯了二五五五 電二一七〇一 航作 本概〇

作戰緊急

小崗山司令部

● 新竹航空基地

● 聯合艦隊司令部・高警・鹿屋航空基地



機密第二四一四一三番電

宛 臺灣空司令官

新竹所在櫻花全機(一二二基)速ニ組立攻撃準備完成シ置ケ。

通一二六七二 於十五(一〇二六五) (五FGB) 中川(土谷)

昭和二十五年五月

三二四 受信一七三〇八 譯了一八二五 電一一二九 航作 本概〇

作 照 野 急

小 崗 山 司 令 部



新竹、臺北、基隆、高雄、臺中各航空基地

密 第 二 四 一 四 一 六 番 電

550

五 F G R 會 令 作 第 二 七 號

一、臺灣部隊指揮官ハ本二十四日左ニ依リ整備員（兵器員）ヲ臺南高雄ヨリ新竹ニ轉進セシムルト共ニ速ニ基地準備ヲ完成スベシ 鐵星三〇（一〇）第一航線輸送機便天山一五〇（五）及月光三〇（一〇）鐵道

二、臺北及宜蘭其地指揮官ハ進發ニ支障ナカラシム如ク至急準備スベシ 三、臺灣部隊指揮官ハ臺北及宜蘭ニ高整各機種一名宛急派スベシ。

海一二六九八 呂一四七五（一）三四七五（一）五 F G R 放 半澤（木下）

人

至急

三二四 受信 一七二五 譯了 二〇〇〇 電二二〇四 航作 概本〇



東通聯合艦隊口

支那方面艦隊口

第一〇航空艦隊口・青島方面根

551

機密第二四一四三六番電

宛 大海參一部 航空本部長

北支方面航空基地急速戰備增強並ニ之ガ確保ニ關シテハ青島根據地隊
機密第二三一六二二番電通ナルヲ以テ青島航空隊轉用(傳隊)ヲ事實
ナリトモハ中支同様現有兵力程度ノ北支空設定ノ要アリ。

通一二七一 呂一Bケ五(七六〇五KG)上海 齋木(小野田)

昭和二十一年五月五日

下

三二五 受信 〇〇三四
開始 〇〇四三
譯了 一二五〇 電 一三六五二 作概 〇



第三哨戒部隊

海上護衛總口・一護衛艦隊口・佐世保鎮守府・鎮洋警備府・上海根

支那方面艦隊口・一〇三艦隊口・A S 三部隊・九〇一空△・九五一空△

機密第二四一四五〇番電 二分ノ一

A S 三第三哨戒部隊命令第六號

A S 三第三哨戒部隊命令第一號中第二號哨戒要領末尾ニ左ヲ追加ス

(注)哨戒艇二隻以上ト同シテ擔任哨區内ヲ哨戒スル場合ノ哨戒要領ハ左ニ

依ル。

一東 通誌 本電問合セノ爲遲延

一電信課註 本電二分ノ二未着

552

通一二九七六 天二日ケ六(五二〇)〇〇佐 通

山口(野田)

06572

昭和廿年参月卅日

空
急

三〇〇三〇〇
三〇〇三〇〇

〇〇〇二〇二〇

〇三〇〇〇〇
〇三〇〇〇〇

昭和五年三月廿日



第三哨戒部隊 A.C. 作戦部隊

海上護衛總隊。一護衛艦隊。佐領。鎮。警
支那方面艦隊。AS三部隊。上根。九〇一航空隊。

機密第二四一四五〇番電

先任艦長指揮ノ下ト連絡ヲ密ニシテ所定擔任航路内哨戒旋泊中敵情ハ應
ジ哨戒法ヲ變更但シ敵情ヲ得ザル場合又ハ哨戒シ化ナキ場合ハ沿岸航
行トス

(一)照ニ通過ノ場合ニ準ジ夜間移動畫間漂泊哨戒ヲ行ト常ニ所定擔任哨區
南岸ノ略中央航行ヲ立前トス。

(電信機註 本電二分ノ一既配布)

通一五九四〇 天二日ケ六 (B) 吳通 務生(新井)

三二四
作 緊 要 急

受 信 一 七 七 五 〇 八
譯 了 一 九 一 〇
電 一 一 一 五 二

航 作
本 機 〇



第五基地航空部隊作戦命令着信繼所

機密第二四一五四五番電

554

第三基地航空部隊電令作第二八號

明二十五日各隊本日二準ヲ攻堅待機並ニ索敵ヲ實施スベシ但水爆隊ノ索敵
号零式水偵一機ア丁一五〇度トス

類一二七〇五
呂一? (一一三四七、五KC) 五F〇七
山 (龍田)

傍

三二四
緊急

受信一八五〇
開始一九一五

譯了二一〇五

電一一二〇〇

航作

本橋〇

昭和廿年參月廿五日

小崗山司令部

● 新竹航空基地

● 臺南、高雄各航空基地

機密第二四一六一四發電

555

參謀長

新 臺灣航空司令部 新竹基地指揮官

明二十五日轉機隊艦攻隊ノ全力及夜襲隊ノ半兵力ヲ新竹ニ移動飛行機

分設秘閉放ニ作戦諸準備促進サレ度。

一 二七五七

一 〇五五八

一 一三四七

一 五〇〇〇

加賀

木

下

1379

考
△

三二六 受信一八四二 開始二一〇〇 終了二三五五 第一二二二二二 作 概



聯合艦隊F、四艦隊F
マシヤル方面防備部隊

核密第二四一六三〇番電

PMB 戦艦機報 (三月二十四日)

一、來襲機一三機〇四〇三PBMF
〇五二三P四〇一〇SBD一四
南方ヨリ來襲銃爆撃(F四〇ノミ二個宛投弾)〇六一三同方向ニ
撃退

二哨戒機〇四二六 一〇四八夫ASB二〇二機

三TBFRラシキ爆音二十三日一七一五 一八五三 二〇三隊北上二

被害戦死陸軍少尉一

一三八三六 呂一〇ラ三(一七六三〇) 四道 谷島(林)

(7. 42)



緊 急

三二四 受信始一九五〇

丁二〇一〇 電一一一八六

△作 部

○



◎ 第二特攻戦隊中・吳鐵・光突隊
◎ 聯合艦隊司令部

機密第二四一六五五番電

發 第六艦隊參謀長

伊號第四七潜水艦搭載(回天)二十六日夕刻ヨリ搭載可能ナル如ク御
手配ヲ得度。

五二七六六 呂一四七五

吳 村野(福 田)

557

三
二五四 受信開始 〇〇一五七 譯了 〇二四五 電一三〇〇 作機概

至急

高警

142

通・聯合艦隊口

總

海護河口・南西方面艦隊口・一航空艦隊口・支那方面艦隊口
二遺支艦隊口・海南警・佐 鎮・沖繩根口

機密第二四一七〇〇番電

558

三月二十三日敵機來襲状況

一〇八一〇頃 B1二五 一機高雄市内ニ侵入商港附近ニ投弾〇八三〇南
方ニ脱去セリ

二一〇一〇ヨリ一四一五ノ間 B1二四 一七機 P1三八 三二機 P1四

七 二四機五群ニ分レ遂次南方ヨリ高雄地區ニ侵入商港附近及高雄セ

メント工場附近ニ投弾後南方ニ脱去セリ

三一〇五〇頃他ノ B1二四 二〇數機高雄西方海面ヨリ北上セルモノノ

如キモ其ノ後ノ状況不明ナリ

四 戦果ナシ 民間損害軽微ナリ
五 被害海軍側ナシ 其ノ他損害軽微ナリ
六 被撃機ニ支障ナシ 其ノ他損害軽微ナリ

通 一 二八七七 呂一三十八一四七〇五 (高) 坂本(山中)

人

三二五 受信〇〇三〇二
譯始〇四二〇〇 譯了〇五二五 電一一七九九

軍航作
需本〇

昭和廿年三月廿六日



東 通 一
通 〇
東 通 一〇根△・三八一航空隊

機密第二四一七二二番電

二分ノ一

發 第二南港艦隊參謀長

宛 第十三航艦參謀長

通 綴 第二百燃料廠長 軍務局長 軍需局長

三 F G B 電合作第一二號及第二百燃料廠機密第二三一九二四番電關聯

其次ノ空戰ニ依リ B B 防衛擔任ノ三八一 F G 戰鬥機機數激減產油及製

油機能ノ確保至難ニシテ今後ノ見透不可能トナリアル處。

【信諒計 本電二分ノ二未着】

一 二九六二 四一 B ケ五 (六一二二二、五 PC) 二一通 高橋 (松井)

559

人

↑

二五

受信開始
〇〇四三一七

二六

譯了〇八〇〇
電一二四九四

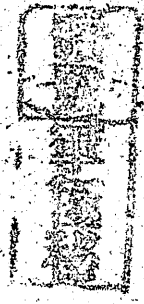
航作
軍本
需概
〇

昭和廿年參月廿八日

作

東通・二三根・三八一航空隊

一〇通



機密第二四一七二二番電 二分ノ二

今般更ニ戰闘機八機轉進ヲ令セラレタニ付テハ現狀到底中央及貴方面ノ
航空揮發油航潤ノ要望ニ應ジ得ザルノミナラズ艦ヲハ全面的操業ヲ停止
スルニ至ルベキヲ以テ激戰航空兵力ノ増勢並ニ抽出戰闘機ノ復讞時期ニ

改テ御配慮ヲ得度
東通ノ註本電問合セノ爲運延
一電二九六六本電呂一分一五八
通一電二九六六本電呂一分一五八
猪瀬(小幡)